

大学連携による教育プログラム「建築トークイン上越」の 企画および実践

建築トークイン上越実行委員会 殿
岩室の会・岩室塾実行委員会 殿
宿泊体験交流施設月影の郷 殿

本教育活動は上越市の中山間地域の廃校を宿泊体験交流施設としてリノベーションした後に、地元で立ち上がった組織と大学教員や建築家たちがサポートにまわり、その宿泊施設に学生が集い、学生たちが代々継続して運営している10年間にわたる中山間地域をキャンパスとした建築教育であり、工学院大学・芝浦工業大学・上越教育大学・東京大学・東京藝術大学・東京理科大学・東北芸術工科大学・長岡造形大学・日本大学・日本女子大学・法政大学・早稲田大学による大学連携で建築トークイン上越実行委員会を組織し、活動している。

内容は毎年テーマを変えて夏に2泊3日のゲストトークも交えた短期集中ワークショップを行うものであるが、4月のキックオフ会議、準備ワークショップといった事前の準備、それから事後のまとめのブックレットの企画編集など約1年にわたり学生は関わる。その間に教員のみならず地元住民や他の専門家等とのコミュニケーションをはかり、さらに都会では得られない地方の中山間の里山の実態を体感的に知ることになる。中山間地域の課題を発見し、解決に向けて、異なる価値観をぶつけながらまとめようとするところにも、大学内では得られない地域での生きた学びの効果がある。最近では宿泊施設内のみならず、市街地の町屋をシェアハウスに改造する事業を展開した。参加大学にはオープンな上、また高校生を交えてのトークイン、地元大学との交流など、幅を広げている。

この教育活動の評価できる点は以下の点である。

- 1) 10年にわたる活動の中で、広がり、発展性、継続性がみられること。先輩から後輩への継承。
これまでの関係大学研究室のみならずトークインに参加する学生にも門戸を開き、学生の主体的運営が育っている点。
- 2) 中山間農村の廃校を宿泊施設に整備する事例が多い中で、地元の受け入れ組織が立ち上がり、関係大学はじめ関心ある学生が集まって地域を考える教育の場として継続的に発展、充実している点。
- 3) 施設から地域に出て、地域の課題を肌で実感しながら、地方の課題、その解決の方向を6、70名の様々な大学からの学生が集団で考える共同作業での教育効果。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。